早稲田大学
デジタルキャンパスコンソーシアム



産学共創による
教育イノベーション

－オンリーワングローバル人材の育成を目指して－

第７次DCCの目的

第７次DCCでは、これまでのDCCの活動の中で築いてきた基盤やノウハウを継承し早稲田大学が「Waseda Vision 150」で掲げる理想（グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築、対話型、問題発見・解決型授業への移行、教育と学修内容の公開など）の実現を目指し、**「ICT を利活用した教育」**をこれまで以上に学生にフォーカスして定着させるとともに、適宜効果測定を行った上でより良い教育手法の開発を進めて参ります。

具体的には以下の３つの重点施策を掲げ、「オンリーワングローバル人材」の育成を目指します。

１．学生の主体的な学びを引き出すICT 活用手法の開発と定着
２．学習活動の可視化による新しい教育の探究
３．未来志向のキャリア形成支援

１．学生の主体的な学びを引き出すICT 活用手法の開発と定着

（１）企業連携版　Faculty Café （産学連携Café）

第7次の新たな試みとしてDCC会員企業様と本学が連携し、本学教員ならびに職員を対象とした「産学連携Café」を実施しました。

DCC会員幹事・準幹事企業様のお取り扱い製品を用いたデモンストレーションを通じて、以下の導入事例へとつながり、教育改善、新たな教育方法開発の模索の一助となりました。

【導入事例】

・ デジタルペーパー
・ Solstice Pod
・ Edge Analytics Appliance

（２）海外協定校視察

2018年度は「アクティブラーニングを可能にする教育・学習環境とICTの利活用　～台湾における高等教育の現場から～」のテーマのもと、台湾（台北市・新竹市）を視察しました。

2019年度は 「対話型、問題発見・解決型教育への移行を可能にする、教育・学習環境とICTの利活用～深圳市におけるIT企業・大学間の産学連携の観点から～」のテーマのもと、中国（広東省深圳市）を視察しました。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、実施が叶いませんでした。

（３）企業・教員・学生・職員四位一体の教育・学習手法の開発

ICTを活用した授業のGood Practiceを表彰する取り組みとして、WASEDA e-Teaching Awardを実施しました。

２．学習活動の可視化による新しい教育の探求

（１）教育の質保証・質向上に資する、Learning Analyticsの深化

先進技術を活用したデータ活用分析の試みとして、データベース上にある個人情報データを秘匿化した状態の統合データウェアハウス（DWH）をAIエンジンに投入し、異種混合学習を用いた学生データの分析モデルの構築を試みました。また、高等教育の計画立案・政策形成・意思決定の更なる効率化、運用コストの低減、セルフサービスBI実現を狙い、学習者の特性分析等に可視化ツール（Tableau）の活用にとどまらず、BIツール（Microsoft Power BI）の導入を進める取り組みを行いました。

（２）学習者に適応した学習方法（Adaptive Learningの提示）

第7次においても継続的にedX講座を制作・配信してきました。edXに加盟した2015年から2020年にかけて全16講座が全世界に公開され、多くの方に学習いただいています。また、学習者データを解析することによって、前の週の学習行動から、翌週にアクセスしなくなる学習者を特定することが可能になりました。（edX講座における学習者の離脱予測）

（３）産学連携によるEM（Enrollment Management）IRの推進

エンロールメント・マネジメント推進の一環として、従来実施していた卒業生調査に加え 、2020年度から新たに学生生活・学修行動調査を開始しました。また、EMIRを更に強化すべく、調査結果と統合データウェアハウス（DWH）データを関連付け、在学時の学び・経験と獲得した獲得した能力の関係性の把握に取り組みました。

３．未来志向のキャリア形成支援の充実化

（１）eポートフォリオを活用したキャリア形成支援の充実化

学生の入学から卒業までのあらゆるアクティビティを可視化することにより、自身の学習成果を俯瞰したうえで、振り返ることを目的としたポートフォリオシステム「MyPortfolio」を授業（社会科学部初年次科目）、課外活動（留学の帰国報告）、本学が展開しているプロジェクト（プロフェッショナルズワークショップ、先輩に会いに行こう、地域連携ワークショップ、こうはいナビ）にて活用しました。

（２）就職活動の変革を促す新たな枠組みの創出

「MyPortfolio」の「就職活動支援（ダイレクトリクルーティングサービスとの情報連携）」機能利用の活性化を進めるにあたって、これまで本学が提供しているプログラムに参加した学生に対して複数回実施してきた適性検査の結果を踏まえて、プログラムごとの特性を見出し、「みらい設計ガイドブック」にて提示することで、自身が大学で伸ばしていきたい力を考えながらプログラムに参加する仕組みを構築しました。

（３）産学協働による、社会人基礎力等の養成プログラムの開発

2019年にDCCフォーラム「汎用的能力の育成を目指した教養教育改革」を開催し、大学と社会（労働市場）を接続するプログラムに関する国際的先進動向をつかむとともに、本学実態調査の一環として、学部卒後社会人10年目の卒業生を対象に、本学の専門教育・教養教育の振り返りアンケートを試行的に行い、分析を進めました。

DCCの変遷および第8次の位置づけ

産学連携フォーラム



異文化交流
実践講座
（CCDL）



Tutorial
English



産学連携Café





Covid
-19



第8次
2021

**オンライン授業の急激な
需要増加**

オンデマンド授業
の実用化



20周年
2019



1999

オンデマンド授業履修者数
2006年度：約27,000名 ⇒ 2019年度：約88,000名

**ニューノーマル期における授業運営・
交流環境**

第8次DCC 骨子

- ✓ 教育・研究・業務運営における快適で安定したICT利用環境の実現
- ✓ ニューノーマル期における授業運営
- ✓ 学生・教職員とのバーチャル上の交流環境実現
- ✓ 学生・教職員・校友向けサービスの充実と新たな働き方の実現に向けたデジタル化促進